



自分は自分！
～私は、唯一無二の存在～



「10歳の壁」「9歳の壁」「小4の壁」が教育界では良く知られた現象でそれについての言葉はご存知でしょうか。

「10歳の壁」「9歳の壁」「小4の壁」とは、年齢に応じた子供の発達段階と深く関連しており、文部科学省は、小学校高学年における発達段階の特徴を次のように説明しています。

【9歳以降の小学校高学年の時期には、幼児期を離れ、物事ある程度対象化して認知することができるようになる。対象との間に距離を距離を置いた分析ができるようになり、知的な活動においてもより分化した追及が可能となる。自分のことも客観的にとらえられるようになるが、一方、発達の個人差も顕著になる（いわゆる「9歳の壁」）。

身体も大きく成長し、自己肯定感を持ちはじめる時期であるが、反面、発達の個人差も大きく見られることから、**自己に対する肯定的な意識を持てず、劣等感をもちやすくなる時期**でもある。また、集団の規則を理解して、集団活動に主体的に関与したり、遊びなどでは自分たちで決まりを作り、ルールを守るようになる一方、ギャングエイジとも言われるこの時期は、閉鎖的な子どもの仲間集団が発生し、他人の言動にすぐ同調する】

この壁を乗り越えるために、文部科学省は、「小学校高学年の時期における子どもの発達において、重視すべき課題」として、5点あげています。

①抽象的な思考への適応や他者の視点に対する理解、②自己肯定感の育成、
③自他の尊重の意識や他者への思いやりなどの涵養、④集団における役割の自覚や主体的な責任意識の育成、
⑤体験活動の実施など実社会への興味・関心を持つきっかけづくりです。

これらの課題に対して、保護者の方が気軽に

自己肯定感が
低いと・・・

何事もすぐに
諦めてしまう

他人との
関わりが苦手

自己肯定感チェックリスト

- ☐ Q 1. 自分のことが好き
- ☐ Q 2. 周囲から愛されていると感じる
- ☐ Q 3. 自分の長所を3つ以上挙げられる
- ☐ Q 4. 将来、やりたいことがある
- ☐ Q 5. 窮地に立たされた時に前向きになれる
- ☐ Q 6. 自分の意見をはっきりと言える
- ☐ Q 7. チャレンジ精神が旺盛
- ☐ Q 8. 積極的に人と関わろうとする
- ☐ Q 9. 失敗してもクヨクヨしない
- ☐ Q 10. 人は人、自分は自分と考えられる

いつも人の顔色を
伺っている

自信がなく
劣等感が強い

このチェックリストは、当てはまるものが多いほど、子供の**自己肯定感が高い**といえます。自己肯定感というのは、失敗からのプロセスに自己肯定があります。**失敗体験があり、そんな自分を許してあげたり、「大丈夫だよ」って認めてあげたりして自己肯定をし、自信につながる**のです。イトマンのテストで不合格になった場合でも優しくフォローをして前向きになる声掛けを行っています。私たちの声掛けがお子様の自己肯定感だけでなく、他の部分の人間性にも良い影響を与えられたらと思います。お子様の輝かしい未来を願っています。